

2024 年 6 月 11 日

学校法人三幸学園
東京立川こども専門学校
校長 清水 智之 殿

学校関係者評価委員会
委員長 横山 耕太

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 横山 耕太 (飛鳥未来きずな高等学校立川キャンパス キャンパス長)
- ② 田中 寿美子 (医療法人社団さいわいこどもクリニック 理事長)
- ③ 山口 瑞希 (第 2 期卒業生)
- ④ 柳川 路子 (ぼけっとランド立川保育園 園長)
- ⑤ 戸館 遥 (第 6 期卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 6 月 11 日 (会場 東京立川こども専門学校 図書室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 東京保育医療秘書専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 高橋 タ子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 横山 耕太

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- (1) 学校方針「連携」という目合わせのもと、教職員の情報共有や協力をするを目標に、授業・行事・実習・就職・学校生活指導全般の指導を行った。
- (2) カリキュラムマップに基づき、学習内容の順次性と、教科間の関連性を意識した授業展開を強化した。
- (3) ディプロマ・ポリシーに基づき、各教科が卒業までに身に着けるべき能力のどの項目と関連するかを意識した授業展開を強化した。

新型コロナウイルス感染法上の第5類への移行に伴い、通常の学校生活に完全に戻る年度となった。校内での課題感をもとに「連携」というテーマで教職員の大枠の目合わせを行い、学校運営を行なった。その結果、両分野ともに検定合格率・就職率は成果を出すことができたが、実習指導・評価についてはより一層の努力が必要であるという課題が残った。

② 学校関係者評価委員会コメント

山口委員(医療学科について)

授業(教員)によつてのルールやリレーション・環境に違いはなかったと記憶している。入学当初は緊張感もあり静かなクラスだったが、慣れてきた頃にはコミュニケーションも増してグループワークが活発にできるようになってからの授業は、より面白い授業になった。

戸館委員(保育学科について)

授業ごと、教員によつて授業の受け方に差があったと記憶している。例えば、生徒の様子をきちんと見ている(成績に反映する)先生か、しない先生か、教員の違いによつて授業の雰囲気は違った。入学式後、1カ月位から元気な子が目立ち始めた。今、振り返ると真面目に勉強したいと思っていたクラスメイトには申し訳ない環

境だったと思う。

実践系授業は夢中になって学べたが、書く・写す・聞くだけの授業では苦しいなと感じることもあった。

田中委員(両学科について)

職員間の連携も年によって上手くできる年、難しい年と様々違いがある。周りに伝えることで、どんなメリットがあるか。「何を・どこまで共有するか」のジャッジについては、人によって感覚が違うので難しい部分である。ヒヤリハットの報告を出す・出さないにも差がある現状。現在は職員間の情報共有に LINE を活用している。何を伝えるかは基準が必要だと思う。

柳川委員(両学科について)

園の職員間の連携では teams チャットを使用している。また、昨年度から使用している昼礼ノートを今年度、並行して活用。ただし、今年度は昼礼時ではなく出勤時に必ず読んでから業務にあたるようにルールを改定。共有事項の確認は朝やその日だけではなく、継続的に過去分も遡りながら把握していて欲しいと思っている。また、情報伝達の流れが途中で止まってしまう事象があり、昨年度からのルール変更もあって、まだそこまで習慣として定着ができていないことが課題である。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- 1)オンデマンドで視聴できる保護者会動画を配信することで理念等の浸透に取り組んだが、視聴数が伸びずに周知・浸透まで至れていない。

② 今後の改善方策

- 1)周知方法の工夫。
- 2)入学後も保護者とコミュニケーションを取りながら周知を行う。

③ 特記事項

2025 年度より保育分野のみの運営になるにあたり、学校の将来構想の変革準備が必要。

④ 学校関係者評価委員会コメント

横山委員（両学科について）

通信制高校は毎日登校する訳ではない環境もあって、保護者の学校に対する関心の濃淡が違うなかで、浸透できるかという課題は常に持っている。生徒募集の段階で教育理念などは保護者に伝えているので、納得した上で学校を選んでくれているという認識でいる。加えて新年度、担任から保護者に対して挨拶の電話を掛けて大事にしていることを伝え、お互いがそれを理解して学校生活を過ごしているが、専門学校と同じく完全に浸透できているかについては難しいと感じる部分もある。まだ高校生という年齢もあって関心度も高く、高校からの電話着信に対しての折り返し等、協力は得られるため保護者との連携は上手にできていると感じている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- 1)ビジネスチャットツール(Teams)等を活用した情報システム化が進み、効率化なコミュニケーションが図られるようになったが、それに伴う個人情報の取り扱いや、使用のマナーなどの課題が見られる。

② 今後の改善方策

- 1)学内勉強会の実施。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

田中委員(両学科について)

現在、職員間で患者情報のやり取りをする際にはビジネスLINEを活用している。過去、個人 LINE を使用して情報共有をしてしまっていたことがあり、セキュリティの観点からビジネス LINE に切り替えた経緯がある。送信する時間については、在宅診療部があるため、時間外の連絡が発生してしまう現状はやむを得ないものの、それを嫌がる職員もいるので医療機関でも課題となっている。

柳川委員(両学科について)

職員が仕事の持ち帰り、その後の発信が業務時間外になってしまった例があり、業務内に実施できるよう指導する事例があった。今年度始め等に、勤務外の teams の使い方について、統一したルールを敷くまでに至っていない。

横山委員(両学科について)

Teams の使い方について、年度初めの会議にてルールの浸透を図った。予約送信等を活用して取り組めているため、ルールが守られてる現状にある。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- 1)講義授業と演習授業の内容が点で終了してしまい外部実習までに繋がっていない。
- 2)職員の能力開発を目的とした研修の強化が必要。

② 今後の改善方策

- 1)外部実習に安心して臨める職員の配置設定、教科間連携を強化。
- 2)職員の意見等も聞き取りながら、研鑽を重ねられる研修の企画。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

山口委員(医療学科について)

1 年次は検定、2 年次は実習。と年次ごとに目標や課題があったが、それに繋がりはあまり感じられていなかった。但し、実習先で実習手帳の文字がきれいな点を褒めていただいたことが嬉しかった時に、ペン字の授業や検定が

あつてよかったと感じたし、努力した成果がそこに繋がるとも感じられた。当時は 1 度の実習であつたが、今は 1 年次・2 年次で2回の実習に行けることで 1 年次の振り返りや確認ができる時間があつて、2 年次の実習に活かせると思う。

戸館委員(保育学科について)

実習が始まるとわからないことが多くあつた。特に日誌の書き方については、いざ書こうとしたときに不安や悩みが多くあつたと思う。授業で行った日誌の書き方の練習は、既に出来上がった日誌を(教科書や板書を)写すだけ等で実際とは大きな違いがあつた。実践的な書き方の演習が経験できるとよかったと思うので、例えば授業で動画を観て、エピソード記録の書き方を練習してみる等の授業が行われるとよかった。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- 1)目標喪失、意欲低下による退学者を減少させる。
- 2)卒業生の社会的活躍を確認することができていない。

② 今後の改善方策

- 1)入学後、進級後の早い時期に分野への意識ができるキャリアイベントを実施。
2024 年度より学園で許可された「キャリア探求活動」という活動を用いて、目標喪失を食い止める。
- 2)就職先への訪問等を強化し、卒業生との関りを持つ。

③ 特記事項

医療分野において、生徒数が少ない中で退学者も多くいたため退学率増。

その他学科は例年と比べ減少した。

		2022 年度	2023 年度
退 学 率	全体	9.0%	6.1%
	保育科	10.8%	6.7%
	こども総合学科	6.6%	1.5%
	医療秘書科	4.6%	20%
	医療 AI 科	12.5%	0%
就 職 率	保育	100%	100%
	医療	94.1% (医療秘書科は 100%)	90.9% (医療 AI 科は 100%)

④ 学校関係者評価委員会コメント

田中委員(両学科について)

定期的に訪問してくれることは、卒業生にとってうれしいことなのではないか。職場見学等に同行した際に、教員には卒業生の様子を見てもらっている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- 1) 卒業生への支援内容の確率がされていない。
- 2) 退学後についての支援体制は準備されていない。
- 3) 保育分野において、社会人スキルとされる「ビジネススキル」、「OA スキル」等の教育環境の強化が必要。

② 今後の改善方策

- 1) 卒業後1年以内に同窓会を実施し、卒業後も関係性を繋げていく。（求人斡旋、スキルアップ研修）
- 2) 退学者アンケートの結果も踏まえ、精神的や健康上の問題での退学者へは再入学の案内の実施も検討。
- 3) 社会人育成の観点を軸に、ビジネススキルや OA スキルを向上させる講習会を任意参加で実施を検討。

③ 特記事項

・オープンキャンパス時、課外活動の一環で在校生スタッフとして活躍している在校生が多い。

④ 学校関係者評価委員会コメント

戸館委員（保育学科について）

社会人になって PC スキル（Word・Excel）が足りず、時間がかかってしまって苦労する場面があったが、先輩方から時短テクニックを教わったことでスムーズになってきた。卒業前に基礎レベルでいいので PC スキル（例えば、簡単なお便りの書き方講座など）や、ビジネスマナーとして、敬語の使い方も教えてもらえる機会があると学生は嬉しいのではないかな。

実践的な授業での学び（ペーパーサート等の制作物や手遊び）は現場に出た今も、とても活用できている。社会に出る前に学校での積み重ねで得たものが、後に自分の引き出しの豊富さに繋がると感じている。在学期間中にたくさんの作品を作っておくことで、実習時や就職後に活用できる。

卒業後、座学の大切さももちろんだが、ピアノ等の実践的授業がより現場で必要性を感じる。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

1)こども総合学科 3 年生のインターンシップについて、実施を有意義にする方法や時期。

② 今後の改善方策

1)生徒・インターンシップ受け入れ先の双方に Win-Win であることを軸に改良する。

③ 特記事項

・避難訓練実施。（校内避難、校外避難場所への経路確認・移動練習）

④ 学校関係者評価委員会コメント

柳川委員(保育学科について)

保育業界ではあまり馴染みは無いのではないかと。インターンシップが就職に繋がるものではない場合に、インターンシップを受け入れるにあたり、メリットを考えると職員の指導力の向上が思い浮かぶ。

横山委員(両学科について)

海外研修について、行きたい思いはあると思うが、家庭の事情やアルバイトだけの収入等で困難な状況が予想できる。海外に対する思いが薄い生徒ばかりではなく、留学したい等の目標が明確な生徒も数名いる。

(7)学生を受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・2024 年 4 月より「東京立川こども専門学校」に校名変更（保育科・こども総合学科の2学科編成）
- ・2024 年度生募集について、募集目標を達成し多くの新入生を迎えた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。
 今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

1) ボランティア活動の場の斡旋ができていない。

② 今後の改善方策

1) ボランティア募集の案内を校内掲示、地域のお祭り等への分野を生かした内容の参画を検討。

③ 特記事項

- ・地域のこどもたちを招待し、無料で遊び場を提供する「こどもひろば」を月1回開催。
- ・保育士養成科の職業訓練の受け入れを継続的に実施。
- ・立川市教育委員会後援のもと、中学生向けお仕事体験イベントを開催。
- ・小平市立第4中学校（職業体験授業）連携。

④ 学校関係者評価委員会コメント

田中委員（医療学科について）

学生が自らボランティアを希望して直接、尋ねてくることはない。現状、受入れているは児童発達支援の部門があるため看護師を目指す学生が参加している状況。

柳川委員（保育学科について）

個人的に申込み、又はボランティアセンターを通しての受入れが主。中学生の職場体験の受入れ経験はあるが、高校生は未だ受入れた経験は前園も含めてない。

横山委員（両学科について）

高校生に向けてボランティア参加募集について、立川キャンパスに来てからは経験なし。仙台キャンパスでは仙台市主催で実施されていた。高校生にとってボランティアは調査書に書くことができる内容にもなるので、立川キャンパスでは乏しいのが課題である。

田中委員（両学科について）

地元に根づくクリニックを作るコツは、元気なときからクリニックに来る機会（お祭りの開催等）を作って、病気の時に行くのが嫌と思わない場所（行きやすい場所）になるようにしている。遊びの提供をしているブース等で保育学生が活躍できる場面もあるため、経験になると思うためぜひお手伝いに来て欲しい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新型コロナウイルス感染法上の第5類への移行に伴い、学校生活も通常に戻る年度となるとともに若者の意志の変化に合わせた指導を意識する必要性とその難しさを感じる。校内での課題感をもとに「連携」というテーマで教職員の大枠の目合わせを行い、学校運営を行なったことで、両分野ともに検定合格率・就職率は成果を出すことができた反面、実習指導・評価についてはより一層の努力が必要であるという課題もある。今回ご意見を頂き、実習や就職後にどのような力や学びが必要だと、在学時や卒業後の生徒たちが感じているのかを知ることができた。より実践的な現場力を得られる、また学びたいと感じる魅力ある授業を展開する工夫が必要であることを再認識できたので、引き続き「連携」というテーマの下で学校一丸となり取り組んでいきたい。